

留学先国名 : カナダ
留学先学校名 : University of Calgary
留学期間 : 平成 28 年 4 月 7 日 ~ 平成 29 年 3 月 14 日

1. 留学前の自分

「留学をする」という決断は、非常に勇気のいることでした。たくさんの人に話をし、考えて、悩んで、決めました。というのも、当時私は既に大学三年目の秋を迎えようとしており、就職活動という一大イベントが目の前まで迫ってきていたからです。挑戦してみたいと思う反面、友人や家族との会話も就職に関する話題が増える中で、「留学をしたい」などとは中々打ち明けられませんでした。そんなことをすれば卒業も就職も先延ばしになってしまうことは明白で、もう遅すぎるとか周りに出遅れたくないとか、就職に不利になってしまうとか、何より親に反対されるかもしれないとか、そんなことをひたすら心配していました。とても日本人的な考え方だと今となっては思います。これまで、「将来のやりたいこと」ではなく「目の前のやれること・すべきこと」ばかりを堅実に、真面目に考えて生きてきた私にとって、留学という選択肢は驚きでもありました。しかし海外への想いはやはり強く、勇気を出して家族や先生方、友人などに相談し、そういった人々に半分背中を押してもらった形で最終的に留学を決断しました。

2. 留学中に経験した貴重な出来事

カナダで生活するにあたり、まず初めに驚かされたのが、人々の多様性でした。世界中からの移民によって構成されているカナダでは、どこの国の出身であろうが、どんな肌の色であろうが、どんな服を着ようが、どんな言葉を話そうが、「一年も滞在すればもうカナダ人だよ」と言われるほど、多様な人々や文化に対して寛容でした。そんな環境で、様々な背景を持った人々と出会い、共に学び、交流することができました。自分と彼らとの差異を見つけては驚き、共通点を見つけては驚き、とにかく驚きの連続の毎日でした。仮にカナダで相見えることがなければ、生涯知ることなかったであろう背景を持った人々も中にはおり、私にとっての「常識」が覆される体験を何度もしました。

また、カナダで出会った人々は「やりたいこと」に対しても非常に寛容でした。皆バイタリティに溢れ、いい意味で楽観的なマインドを持っていながらも、キャリアに関してはストイックでシビアな考え方を持っており、実力主義社会の一片を見たような気がしました。出る杭を打つことなど決してない、非常に心強い人々に囲まれることで、自分のやってみたいことにチャレンジすることに対するためらいは薄れていきました。

一方、語学学習のつもりで参加した教会やバイブルスタディーもまた、私の価値観に大きな影響を与えました。キリスト教の最も重要な特徴である一神教の教えと日本独自の宗教観である神仏集合という概念が相居ることは当然なく、目から鱗な考え方に数多く触れることができました。議論の場では何度もお互いの意見を素直にぶつけ合いました。困惑したり、悩んだりしたこともありましたが、語学学習という範疇を超えて人間や歴史、人生といったものを深く考える貴重な機会となりました。

3. 留学後の自分

約一年間の滞在を経て、まず実感するのはやはり語学面での成長です。中でも聞く・書く・話すスキルは一年前と比較して大きく伸びたのではないかと思います。授業に真面目に取り組んだことは勿論のこと、地道な授業外学習や日々の過ごし方へのこだわりが実を結んだのだと思います。日常生活の中で見過ごしがちな些細な場面こそ、成長のチャンスであることを身を以て知りました。自分の気持ちの持ち方や考え方次第でいくらでも成長の場は創り出せることに気づかされました。

そして何より感じているのは、価値観の変化です。今まで「社会」とか「世間」とか、そういった基準で物事を測りがちだった私が、「自分」という基準でも物事を測ることができるようになりました。一年前、「大学四年目に留学するなんて遅すぎる」と考えていた私が、「一年目でも二年目でも、三年目でもなく、四年目だったからこそ、あれだけ深く物事を考え行動し、実りのある留学ができたんだ」とまで考えることができるようになりました。また、様々な価値観に触れ、共感したり、疑問を抱いたり、時にぶつけ合った経験が、自分のアイデンティティをより深く見つめなおすきっかけとなりました。今なら、この約一年間は無駄な時間ではなかったと言い切れます。

このようにカナダで素晴らしい人々に出会い、素晴らしい経験をしたことは確かです。しかしそれと同時に、これまで私を育ててくれた日本の環境や文化がどれだけ素晴らしく、恵まれたものであったかを再確認できた一年間でもあったと強く思います。

4. 今後の目標、抱負

今回の留学を終え、語学面での成長を感じると同時に、まだまだ勉強が足りないという強烈な反省も感じています。これからも語学の学習は継続していこうと考えています。将来の進路については検討中ですが、海外の大学院への進学もひとつの選択肢として考え始めています。IELTS などの各種英語検定試験のスコアをもう少しだけ伸ばすことができれば、そういった目標も現実味を帯びてくるのではないかと考えています。また、京都と大阪という関西の中でも屈指の国際都市を行き来する生活をしていることも相まって、これまでの経験を活かして海外からの訪問者をどうにかしてお手伝いできればとも考えています。アルバイトでもボランティアでも、どのような形であれ、それは喜ばしいことであると考えています。

5. これから留学する人へのアドバイス

留学は「どれだけ長く海外で過ごすか」という尺度ではなく、「どう過ごすか」という尺度を持っているかどうかで大きく変わると思います。長く滞在していても、ただ漠然と日々を消化していだけでは意味がありません。寧ろ短い期間を最大限に利用し濃密な経験を得て帰っていった人は多くいました。新しい環境に思い切って飛び込んでみる大胆さも時には必要です。何気ない毎日の中でのふとした気づきを見逃さず、あらゆる場면을学びの機会と捉えることができれば、得られる経験値は格段に増えると思います。一生に何度もできる体験ではないので、とにかくこだわってみてください。